

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400316		
法人名	株式会社 秀		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	函館市富岡1-54-17		
自己評価作成日	H28年1月12日	評価結果市町村受理日	平成28年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191400316-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191400316-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年2月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活を送る中で、各入居者同士が互いに相手を思いやり、共に共同作業も出来、助け合いながら生活出来る様支援しています

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に家族にも参加を呼び掛けて、事業所の取り組み状況や意見、要望等を言い表す機会を設けて話し合い、運営に反映ができるように取り組んでいる。  
また、一人ひとりのその日の希望に沿って外気浴や散歩、紅葉やお花見ドライブなど戸外に出かけられるように支援していたり、一人ひとりの生活歴や力を活かしながら食事の後片付けやテーブル拭き等の役割、書き初めやカルタ、豆まきなどの季節の行事を採り入れて楽しみごと、気分転換等の支援をしている。  
敬老会の催しでは、地元の中学校の吹奏楽部の生徒たちの協力を得て、演奏会を開催して子供たちとの交流の機会を作る取り組みを実践している。

## V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアプランを通して各利用者に沿った支援が出来るよう念頭に置き、更に情報共有し業務に繋げるよう努めている	事業所独自の理念を見易い場所に掲示して、日常業務やモニタリングを通じて職員間で共有して実践につなげるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の学校等にも働きかけ音楽鑑賞の場を設けたり、季節の行事などを行うことで地域の方の協力を増やす様努めている	敬老会では、地元の中学校の吹奏楽部の生徒たちの協力を得て、演奏会を開催して子供たちとの交流の機会を作ったり、事業所のお祭り等の開催や地域の行事参加で、地元の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族との外出や職員等と公共の場などへ外出する機会をもち社会との関わりを保つように努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族の他に町内会・包括支援センターの参加を含め今の制度のあり方・今後の方針・高齢者を取り巻く現状報告等、意見交換をしている	運営推進会議を定期的で開催して、地域包括ケアシステムや認知症による交通事故など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かせるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	緊急時以外でも、電話連絡を取り、最新情報を得る様、常に連携を図っている	市担当者との連携の重要性については認識しており、日常業務を通じて相談や助言を得るなど協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ防犯上玄関施錠を行い各職員間で入居者の状態を把握し身体拘束をしないケアに努めている	身体拘束廃止については、日常業務やミーティングで職員間で共有ができるように話し合い、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	単独行動せず、他の職員の意見も聞き指導も含め防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の案内も公開し、可能な限り出席しその報告会を開き、活用出来る様支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容については十分理解して頂いている変更があった時も、文章や口頭等で再度説明し、理解を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族訪問時に、入居者の様子を伝える事で今後の対応や要望などを実践出来る様に心掛けている	本人・家族等が意見や苦情等を言い表せるように受け付け担当や第三者の受付機関の申し出先を明示している。また、そこでの意見や要望等を運営に反映するよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見や発案を都度話し合い、反映できる様心掛けている	職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制や休み希望などは出来る範囲で取り入れている。又、賃金等では、資格・経験年数などを考慮し毎年見直されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握し出来ない事をなくしていける様、指導・トレーニングを実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同法人内GH連絡協議会の勉強会に参加、又、包括や居宅事業所等より情報を得て、サービスの向上に努めている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の状態、今起っている状況などを把握し密に接しながら、安心して過ごせる様努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日々の生活の中で、段々と落ちていくALD等を伝え、今必要とされている事を提供出来る様な関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居している事への不満・不安、又は帰宅願望がある方に対し、心穏やかに過ごせる支援し、家族への報告等対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者の個性を大切に、共に共感し合えるような場を設けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場も理解し、訪問時には家族だけの時間を設けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の事情により、外出・外泊は難しいが、墓参りや思い出の場所の話などをし自ら外出への意欲を持てる様に支援している	紅葉やお花見ドライブ、お墓参りや地域の行事参加を通じて、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者の性質を理解したうえで共同作業が出来る場と出来ない場を判断し、それぞれの役割を分担しながら自然に支え合えるような関係が出来る様支援している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたとしても、必要に応じ情報提供等をし相談も受け支援していく様努めている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の暮らしの中で不便性・必要性等、本人よりの意向を聞き、希望に添える様努めている	本人の生活歴の把握や家族からの意向や要望を話し合い、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームでの生活が現状となっているが行動パターンを広げ、今後の対応に役立てる様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活リズムや体調管理、精神状態も含め、これから変わっていく現状を把握していく様努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の体調変化・メンタル面にも合わせ、定期的にプランの見直し、又は、病院受診など、今できる事を計画に練り込んでいく様に努めている	本人、家族の意見や要望、モニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、記録等を通し、更に、気付いた事は勿論、すぐ実行に移せるよう各職員は各利用者の状態を把握する事に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化により、ニーズやサービスの変更に対応出来る様取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	限られる戸外での活動を出来る限り援助し、楽しみながら生活出来る様に支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・医療連携の他、体調不良時など連携を図り受診、または、他医療機関へも受診している	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や訪問看護との連携、通院への支援で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関と連携を取り常に相談している。必要時、看護婦を通し医師より適切なアドバイスを受けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、ご本人の状況の他、ご家族とも連絡を取り、病院側とも情報交換出来る様対応している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	家族やご本人の意向をふまえ、早い段階での家族への終末期の説明・訪問介護の説明等をし、いつでも対応出来る様に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら、方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡・対応について連絡網を作成し、マニュアルを作り、日々話し合いも設けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回、入居者・家族等も参加し近隣にも周知して頂き実施、避難経路も、近くの同法人施設と連携を図り、備蓄管理も行っている	家族も参加して年2回の火災避難訓練を実施している。また、近くの施設と避難経路の確保など連携している。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者の人権を尊重しながら言葉掛けに注意する様心掛けている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で決定できるような言葉かけをするよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	生活リズムが出来上がっている中で、各入居者に希望を聞いたり、出来る事を提供しそれに沿った一日を過ごせる様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気に入っている衣類だけではなく、普段着ることがない衣類等も褒め、自分から更衣等出来る様支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの盛り付け・振り分け、苦手な物は代用品での提供。食器拭きなど、各入居者の出来る能力に合わせ片付け一緒にも行っている	一人ひとりの好みや力に合わせて職員と一緒に食事の準備や後片付け等を行っている。	今後は、食事が進むようにメニューの工夫や栄養面も伝えながら支援をしていくよう検討しているので、その実践に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の身体状況に合わせて形状を変えたり、摂れない場合は補食で補い、水分についても摂りすぎないように声掛けに注意しながら支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが出来ない入居者は、職員が口腔内清拭を実施、出来る入居者には継続していただける様な声掛けをし、清潔保持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状態に合わせて、トイレ誘導実施、拭き取りも行っている。都度、排泄パターンを検討しながら支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、誘導等でトイレでの排泄にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体に良い食物繊維や内服薬の併用、乳製品の提供等、日中も出来る範囲での運動を行い、排泄パターンの把握に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	定期的に入浴日はあるが、その時入りたくない人もいるので、入浴することによって気分転換も出来る事を伝え本人の意思確認した上で対応している	入浴拒否の強い本人にも対応した支援をしている。また、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて週2回の入浴を目安に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態によって、午前・午後と居室で臥床。リビングにいて落ち着く方は見守りしながら穏やかに過ごして頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の処方されている薬を理解し、それとは別に、体調不良によって処方された薬を服用することで、症状の変化にも気付いていける様努めます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事で、外出先での買い物で季節感を味わったり、気分転換できるような支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診や墓参り等は協力を得て家族対応で行っている。又、季節行事で外出を組み入れ実施し、支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って外気浴や散歩、買い物、紅葉やお花見ドライブなど戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族が管理されており、本人が自ら金額を家族に確認されている。日用品に関しては、買い物代行を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書など来る事もあり、それに対し返事を出せるように支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内・居室も含め、各自が気に入った飾りつけ等で季節感を取り入れる工夫をしている	1ユニット(定員:8名)で家庭的雰囲気があり、生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、共用空間は、利用者にとって、気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空いているスペースを利用したり、いつも座り慣れた場所で気の合った利用者とは話しながら過ごせる様雰囲気づくりに工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の私物は勿論、家族からの差し入れを飾ったり、それぞれに思い出のある物を置く事で居心地良く過ごせるよう工夫している	居室には、使い慣れた家具や身の回りの品が持ち込まれて本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内各場所に何をするとところか、一目で分かるような掲示をし、自分で移動出来る様、安全を考慮しながら工夫している		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ふるさと

作成日: 平成 28年 2月 24日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	13	職員の入れ替わりもあって日々の仕事を覚える事が先で、入居者への気配りが現状では難しい。	各職員は仕事を覚えると共に、入居者への気配りが出来る様努力する。	経験を積み重ね、実践出来る様職員同士が協力し合っていく。	12か月
2	40	メニュー通り提供しても食べない事が多く、代用品を用意するも、当人の希望に沿えない事がある。	食べて頂ける様声掛けし、当人からの意欲も引き出せる様努める。	食事の必要性や栄養面も伝えながら食べて頂ける様支援していく。	12か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。